



# 筑紫女学園大学リポジト

## Nerval et Robert le Diable

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-02-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 間瀬, 玲子, MASE, Reiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/512">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/512</a>

# ネルヴァルと『悪魔のロベール』

間 瀬 玲 子

Nerval et *Robert le Diable*

Reiko MASE

## I. 序

19世紀の作家ジェラルド・ド・ネルヴァルGérard de Nerval が職業として劇評を執筆したことはすでに論じたことがある。(1)その論文においてウジェーヌ・スクリーブ Eugène Scribe が台本を書いた作品を論じた。『悪魔のロベール』 *Robert le Diable*についても簡単に論じた。

本論文ではネルヴァルはオペラ『悪魔のロベール』からどのような影響を受けたのか、ネルヴァルは『悪魔のロベール』と聖女ロザリアを結びつけて考えたことがあるのかを、ネルヴァルが書いた文章と真摯に向き合い、考察したいと考える。

## II. 『悪魔のロベール』の作品及び上演

『悪魔のロベール』は中世ヨーロッパに起源を持つ伝承である。本論文を執筆するに際し、伝承に関する書籍を入手して熟読した。(2)その結果ネルヴァルは伝承から影響を受けたのではなく、オペラ『悪魔のロベール』から影響を受けたと考えるに至った。ネルヴァルが『悪魔のロベール』の伝承に関して知らなかったという証拠はないが、直接の言及がないことは確かである。そこで本論文ではネルヴァルがオペラ『悪魔のロベール』からどのような影響を受けたのかを論じることにする。

オペラ『悪魔のロベール』は1831年11月21日パリのオペラ座Théâtre de l'Académie royale de musique (Opéra Le Peletier) で初めて上演された。台本はスクリーブとジェルマン・ドゥラヴィーニュ Germain Delavigne が担当し、音楽はジャコモ・マイヤベーアGiacomo Meyerbeer が担当した。1831年版の台本はフランス国立図書館電子テキストサイトGallica から電子テキストを入手し、廉価版も購入した。(3)バレエはタリオーニTaglioni、舞台装置はシセリ Cicéri が担当した。そしてまず幕ごとの出演者の名前が列挙されている。そして登場人物と俳優名が記載されている。シシリアを舞台としていることも明記されているが、時代設定は記載されていない。

『悪魔のロベール』は現代でも上演されており、DVD やCD が発売されている。しかし21世紀に頻繁に上演されるようなオペラとは言い難い。悪魔と人間との間の子であるロベールが苦しみながらも最後は救われるという話である。ロベール以外の登場人物は、バルトランBertram (友人、

実は悪魔である父)、イザベルIsabelle (シチリアの王女)、アリスAlice (ロベールの妹)である。1867-1869年に発行された *Dictionnaire lyrique ou histoire des opéras* (『オペラ辞典またはオペラの歴史』)では2ページを費やして詳細な説明が行われている。まずオペラ『悪魔のロベール』が中世の伝承をもとに作成されたこと、オペラのあらすじ、そして最後は演じたオペラ歌手の紹介をしている。(4)

Gallica には1831年上演の時に使われた衣装の版画が収録されている。この衣装が後の時代の上演に影響を与えた可能性はあると考えている。版画家ルイ・マルーヴルLouis Maleuvre (1785年生まれ、没年不明)の作品が収録されている。その中でも代表的な4枚を紹介してみよう。1枚目は当時活躍していたアドルフ・ヌリ Adolphe Nourrit (1802-1839)が演じたロベールのエッチングである。赤を基調としており、袖は灰色がかった黒である。腰の帯と首飾りがアクセントとなっている。(5)そして1幕7場のロベールのセリフが下に書かれている。(6)2枚目もヌリが演じたロベールのエッチングである。黒みがかった紫の衣装、黄金色のベルト、そして衣装の下のほうのピンクの十字はかわいらしさを演出している。下の方に5幕2場のロベールのせりふが書かれている。(7)3枚目はシンチ・ダモロー Cinti-Damoreau が演じたイザベルを描いている。赤と白を基調とした優雅な衣装は、シチリアの女王を非常によく表現している。(8)4枚目はドリユスDorusが演じたアリスを描いている。衣装の大部分が青色で、裾が黄色い布に赤い模様が施されている。髪には赤と青のリボンが付けられていて、全体の印象はとても愛らしい。(9)この4種類のエッチングから登場人物の性格や時代背景を想像することができる。また『悪魔のロベール』などという題名とは程遠いほど穏やかなデザインの衣装である。エッチングの下に必ず台詞が書かれており、どれが重要場面であるかもよく理解できる。

Gallica には1831年上演時のデザイナーであるウジェーヌ・デュ・ファジェ Eugène Du Fagetによる水彩画と明るい色のタッチのグワッシュ画 (アラビヤゴムで顔料を溶いた不透明水彩)が8枚収録されている。(10)フランス国立図書館のカタログに多少注釈を加えたいと考える。

- 1枚目 ペロ 2幕に登場する5人の踊り (Pas de cinq) の一人の名前
- 2枚目 ドリユスが演じたアリス マルーヴルが描いたエッチングと同じ青を基調した衣装ではあるが、別の衣装である。
- 3枚目 モンテッシー夫人 原画を良く見ると、モンテッシュューと書かれている。2幕に登場する5人の踊りの一人 (台本でモンテッシュューであることを確認した)
- 4枚目 『悪魔のロベール』の衣装 これ以上のコメントは書かれていない
- 5枚目 ラフォンが演じたランボー
- 6枚目 ダモロー夫人が演じたイザベル マルーヴルが描いたエッチングと同じ衣装。多少の違いはある。
- 7枚目 ヌリが演じたロベール マルーヴルが描いたエッチングと同じ衣装。ベルトの部分に違いがある。
- 8枚目 ルヴァッサーが演じたベルトラン 黒を基調とし、赤紫のマントが非常に魅力的である。

原画であるので当然かもしれないが、マルーヴルのエッチングに比べると非常にあっさりとした印象を与える。やはり迫力を感じさせるのは、8枚目のベルトランの衣装である。以上の原画から察するに、原画から衣装作成までの過程で手を加え、舞台上で着用された衣装の段階で作り直しが行われた可能性もある。

Gallicaには『悪魔のロベール』の1831年上演時の舞台装置の資料が多数収録されている。まず舞台装置家ピエール＝リュック＝シャルル・シセリ Pierre-Luc-Charles Cicéri の作品が収録されている。「3幕の廃墟の墓の準備段階の素描」が2枚収録されている。2枚ともペン書きで、黒ずんだ褐色の淡彩画法による。素描ながら第3幕のおどろおどろしさを感じさせる作品である。3枚目は3幕の「修道院の中庭を囲む回廊の準備段階の素描」である。回廊の荘厳さがよく表現されている。セピア（水彩画用暗褐色顔料）とペン書きである。(11) Gallica にはシセリの3幕の素描を収録していることから、この幕が『悪魔のロベール』においていかに重要であるかが理解できる。

またGallica には1831年フランスのリアル劇場で上演された時の舞台装置家エドゥアール・デブレシャン Edouard Despléchin の準備段階の素描が収録されている。1枚目は3幕の修道院の準備段階の素描である。右端は崩れかけた柱が描かれている。ベージュ色の紙でペンと水彩画による。(12) 2枚目は3幕の幕を表している。サンチレーヌ Sainte Irène の切り立った岩の場面である。1枚目と同様にベージュ色の紙でペンと水彩画である。(13) 『悪魔のロベール』は当時フランス各地の劇場で上演されるほどの人気演目であった。パリだけでなくフランスの地方都市のリアル劇場の資料が残されるほどであったことを記すために紹介をした。

ここで言及しなければならないのは、ネルヴァル研究にとってある意味で重要な人物であるジェニー・コロン Jenny Colon がベルギーのラ・モネー座 Théâtre de la Monnaieにおいて活躍したことである。コロンの活躍はすでに研究されているがジャック・イスナルドン Jacques Isnardon の『ラ・モネー座、創立から今日まで』 *Le Théâtre de la Monnaie, Depuis sa Fondation jusqu'à nos jours* (1890) を参考にして『悪魔のロベール』の上演とコロンの活躍を整理してみよう。(14)

1833年10月10日 ラ・モネー座において『悪魔のロベール』の最初の上演

1834年4月20日 ラ・モネー座 1833-1834シーズンにおける『悪魔のロベール』上演終了

1835年3月7日 ジェニー・コロンが『ラ・プリマ・ドンナ』 *La Prima donna* に出演

1840年-1841年のラ・モネー座のオペラ等のメンバー表にジェニー・コロン・ルプリュス Jenny

Colon-Leplus (1838年にジェニー・コロンはルイ＝マリー＝ガブリエル・ルピュルス Louis-Marie-Gabriel Leplus と結婚した) が女性陣の中でトップ (第一歌手) に記載されている。

1840年9月14日-9月30日 コロンは『ドミノ・ノワール』 *Le Domino Noir* 『大使夫人』

*L'Ambassadrice* 『一日の王妃』 *La Reine d'un jour* 『悪魔のロベール』 *Robert le Diable* 『木造民家』 *Le Chalet* 『書生の草原』 *Le Pré-aux-clercs* 『農園主』 *Le Planteur* に出演した。

その後は日付とオペラの題名だけが記載されている。

1840年12月15日 『ピキッコ』 *Piquillo* (3幕のオペラ・コミック) (アレクサンドル・デュマ Alexandre Dumas とネルヴァル作、モンプー Monpou 音楽) 初演

1841年4月28日 コロンは『セビリアの理髪師』*Le Barbier de Séville*の再演に出演 (15)  
なおラ・モネー座における『悪魔のロベール』の初演にコロンが出演したわけではない。

また『ジェラルド・ド・ネルヴァル 展覧会目録』*Exposition Gérard de Nerval* (1996) に書かれているコロンの活躍も内容的に重なる箇所もあるがまとめてみよう。(16)

ジェニー・コロンのベルギーにおけるデビューは1840年9月14日

コロンが出演した演目と役名

『ドミノ・ノワール』 アンジェル Angèle

『大使夫人』 アンリエット Henriette

『書生の草原』 (役名の記載なし)

『一日の王妃』 フランシーヌ Francine

1840年10月7日『悪魔のロベール』のための全体的練習のための休み

『悪魔のロベール』は10月9日、11日、25日に上演

同年11月13日、コロンは身体の具合が悪く、『悪魔のロベール』のイザベル役はビュルテル夫人 Bultelが代わりに演じた。

1840年12月15日『ピキッコ』が初めて演じられた。

1840年12月14日から21日まで、ネルヴァルは練習に参加した (1840年12月23日付の父宛ての手紙による)

この展覧会目録でわかるのは、コロンが『悪魔のロベール』のイザベル役を演じたこと、体調を崩して1回は出演していないことである。またネルヴァルは作者のひとりとして『ピキッコ』の練習には参加している。しかし『悪魔のロベール』をネルヴァルが見たかどうかは何も書かれてはいない。

### Ⅲ. 『悪魔のロベール』に関するネルヴァルの言及

さてここでネルヴァルは劇評や劇評以外の作品の中で『悪魔のロベール』をどのように言及したのかを整理してみよう。なお『悪魔のロベール』を単独で論じた劇評を主に取り上げることにする。

#### (1) 劇評

ネルヴァルが劇評で初めて『悪魔のロベール』に言及したのは『プレス』紙*La Presse* 1838年5月21日号である。当時のオペラ座における上演に関して記述している。

Nous n'avons qu'indiqué le début de Mlle Paun Varny dans Alice de *Robert le Diable* ; Mlle Paun Varny est une jolie personne à grands yeux noirs, qui possède une voix d'une grande étendue … (17)

『悪魔のロベール』のアリス役でパウン・ヴァルニー嬢のデビューを示すのみだった。パウン・ヴァルニー嬢は大きな黒い目をした美しい女性で、広い声域を持っている。

『悪魔のロベール』の初演から7年近くもたち、あまりにも有名な作品となってしまった時期の記事である。『プレス』紙の読者は『悪魔のロベール』の内容も熟知しており、女優のデビュー以外の話題もなかったようである。ネルヴァルはこの女優を絶賛している。

次は『演劇雑誌』*Revue et gazette des théâtres* 1841年1月7日号の次の記事である。他の作品への言及もあるが引用してみよう。

Bruxelles. — Le Grand-Théâtre a inauguré l'année 1841 avec la reprise de *La Muette de Portici*. La représentation a été fort brillante ; Mme Colon-Leplus et M. Laborde ont eu leurs triomphes accoutumés, et tout fait présager un succès de longue durée et qui rappellera ceux de *Robert*, de *La Juive* et des *Huguenots*. (18)

ブリュッセル—大劇場は1841年『ポルティチのものの言わぬ娘』の再演で始まった。上演はとてすばらしかった。コロネルピュルス夫人とラボルド氏はいつもの大成功をもたらした、そしてすべてが長期間の成功を予兆させ、『悪魔のロベール』『ユダヤの女』『ユグノー教徒』を思い起こさせるであろう。

ブリュッセルにおいても前年までに大成功した演目の中にしっかりと『悪魔のロベール』が入っていることがこの記事でよくわかる。文中に登場するラボルド氏は、ラ・モネー座の1840年—1841年のシーズンにおける第一テノール歌手である。(19)

以上のように二つの記事を紹介した。他のオペラと共に題名を言及した記事はいくつか存在する。ネルヴァルが劇評を発表していた時期は『悪魔のロベール』の人气が高く、特に記事にくどくどと書くような内容がなかったのかもしれない。

## (2) 劇評以外の作品

ネルヴァルが劇評以外の作品で『悪魔のロベール』をどのように言及したのかを紹介してみよう。まず『東方紀行』*Voyage en Orient* (1851) の「ラマダンの夜」*Les Nuits du Ramazan* 4 サン・ディミトリ *San Dimitri*の一節を多少長くなるが引用してみよう。コンスタンチノーブルの夜を描写している。

Il avait tiré de sa poche une lanterne de fer-blanc dont les replis en toile s'allongeaient comme des feuilles de soufflet qui s'écartent, et y planta une bougie : 《 Voyez, reprit-il, comme ces longues allées de cyprès du Grand Champ des Morts sont encore animées à cette

heure. 》 En effet, des robes de soie ou des féredjés de drap fin passaient çà et là en froissant les feuilles des buissons ; des caquetages mystérieux, des rires étouffés traversaient l'ombre des charmilles. L'effet des lanternes voltigeant partout aux mains des promeneurs me faisait penser à l'acte des nonnes de *Robert*, — comme si ces milliers de pierres plates éclairées au passage eussent dû se lever tout à coup … (20)

彼（老人）はポケットからブリキのランタンを取り出した。その布の折り目は、蛇腹の一枚一枚のように開き、伸びていた。そしてそこに蠟燭を立てた。「見てください」と彼は言葉を続けた。「死者たちの大苑の糸杉の長い散歩道のように、この時間でも活気がある。」実際絹のドレスや薄い毛織物のフェレジェが茂みの葉にしわを作りながら、ここかしこを通り過ぎていた。神秘的なおしゃべりや押し殺した笑いがクマシデの並木道を通り過ぎていた。散歩者の手元のランタンの効果がいたるところでとびかっていた、それは『悪魔のロベール』の尼僧の場面を思い起こさせた。それはあたかも通りがかりに照らされた無数の石が突然立ち上がったかのようなのである…

コンスタンチノーブルの夜の公園を歩き交う女性たちの姿を見ながら、オペラ『悪魔のロベール』の有名な尼僧の場面を思い起こすのはかなりの飛躍がある。すでにⅡで引用したシセリの3枚の絵に描かれた荘厳な建造物や重厚な回廊とコンスタンチノーブルの並木道には大きな隔りがある。強いて言うならば「喪」を象徴すると言われる並木道の糸杉がネルヴァルを魅了した可能性はある。なおこの並木道の後にゲーテの詩「旅人」*Le Voyageur*が引用されている。この詩のフランス語訳はネルヴァルが1840年に刊行したゲーテ『ファウスト』*Faust*に収録されている。ネルヴァルの記述と実際の翻訳を列挙してみよう、

ネルヴァルが『東方紀行』に引用したゲーテの詩

*Tu souris sur des tombes, immortel Amour !* (21)

（君は墓の上で笑う、不滅の愛！）

ネルヴァルが翻訳したゲーテの詩「旅人」（旅人と女性のやりとりが書かれている詩である）

Tu vis encore sur ta tombe, divin génie ! ton chef-

d'œuvre s'est écroulé sur toi, ô immortel ! (22)

（君は墓の上でまだ生きている、神のような才能 君の傑作は  
君の上で崩壊した、おお不滅の存在！）

ネルヴァルは自分で訳したゲーテの詩「旅人」の単語をつなぎ合わせて、『東方紀行』に引用をしたことはプレイヤッド版の編者も注に書いている。そしてその後ペラの町が登場する。

この点に関してはすでに過去に言及したことがあるが、プレイヤッド版の注にジルベール・ルージェがゴーチエの著作を指摘したことが書かれている。(23)それはルージェが編集した『東方紀行』校訂版第4巻に書かれている注のことである。(24)注ではネルヴァルの友人であるテオフィル・ゴー

チエThéophile Gautier の『コンスタンチノーブル』 *Constantinople* の第13章『スクタリの墓地』 le cimetière de Scutari を引用している。ルージェが引用した文章よりも少し長めに引用してみよう。

Plus d'une fois j'ai traversé le cimetière de Péra, par les clairs de lune les plus fantastiques, à l'heure où les blanches colonnes funèbres se dressent dans l'ombre, comme les nonnes de Sainte-Rosalie au troisième acte de *Robert le Diable* … (25)

一度ならず私はペラの墓地を通り抜けた。最も幻想的な月の光によって白い陰鬱な柱が暗がり  
に立っている、それはあたかも『悪魔のロベール』の3幕の聖女ロザリアの尼僧のようである…

ネルヴァルがコンスタンチノーブルの夜の並木道から、『悪魔のロベール』を連想するには、ゲーテの詩「旅人」とゴーチエの『コンスタンチノーブル』が介在している可能性は非常に高いと考えている。

次にネルヴァルは『ボヘミアの小さな城』 *Petits châteaux de Bohême* (1853) II 人物素描 Portraitsで次のように書いている。

La faiblesse de son estomac nous inquiéta d'abord. Il s'était endormi et senti malade à la première représentation de *Robert le Diable*. (26)

私たちはまず彼の胃が弱っていることが不安だった。かれは『悪魔のロベール』の初演の時に眠ってしまい、気分が悪くなった。

この前後に『悪魔のロベール』の話が出てくるわけではない。1831年の『悪魔のロベール』をゴーチエと仲間たちが鑑賞したということしか言えることはない。この文章だけではそれ以上のことを結論付けるのは無理がある。

#### IV. 聖女ロザリア

『悪魔のロベール』がネルヴァルに与えた影響を考える際に考察しなければならないことは、ネルヴァルが『悪魔ロベール』と聖女ロザリアを結びつけて考えたことがあるかどうかである。聖女ロザリアはイタリアのパレルモの守護聖人である。ネルヴァルの『火の娘たち』 (1854) *Les Filles du Feu* の「オクタヴィ」 *Octavie* に登場する。

『悪魔のロベール』で最も重要な場面である3幕6場には聖女ロザリアが登場する。その場面のト書きを引用してみよう。

A droite dans le mur, entre plusieurs tombeaux sur lesquels sont couchées des figures de nonnes taillées en pierre, on remarque celui de sainte Rosalie. Sa statue en marbre est recouverte d'un habit religieux, et tient à la main une branche verte de cyprès. (27)

右の壁の中、幾つかの墓の中、その上に石で刻まれた修道女の像が横たわっている。そこに聖ロザリアの像に気づく。大理石のその彫像は宗教服で覆われ、手には糸杉の緑の枝を持っている。

すでに引用した『東方紀行』のコンスタンチノーブルの町の散歩道には確かに糸杉が登場した。そしてネルヴァルは『悪魔のロベール』を想起した。残念なことに『悪魔のロベール』と聖女ロザリアを直接結びつけたネルヴァルの文章はない。

あくまで参考資料であるが、1834年にフランスのリヨン・大劇場で行われた『悪魔のロベール』の分析の文章がGallicaに収録されている。(28)大事な点はいくつかある。3幕でロベールはイザベルのために緑の枝とお守りを探しに行く。3幕7場で「ロベールは聖女ロザリアのイメージの中に母の面影を見て怒り、逃げたくなる。」と書かれている。ロベールは結局お守りと緑の枝を手に入れる。この分析文だけで、ネルヴァルが『悪魔のロベール』と聖女ロザリアを直接結びつけたと結論することは難しいと考える。

## V. 結論

ネルヴァルはオペラ『悪魔のロベール』の劇評を書き、また彼の作品においても言及を行った。フランス国立図書館Gallicaには『悪魔のロベール』の舞台衣装、背景画が多数収録されている。特に最も有名な3幕に関する資料が多いのは当然のことであろう。

ネルヴァルが『悪魔のロベール』に対して抱いた一番の強烈な思いは『東方紀行』から引用した一節に凝縮されている。コンスタンチノーブルの夜の散歩道を見て『悪魔のロベール』3幕を連想したという事実である。そしてそれがゲーテの詩「旅人」へとつながっていく。それ以外の事は推測の域を超えない。

本論文を執筆するに際し、Gallica等に19世紀の演劇に関する貴重な資料が収録されていることを改めて確認した。今後も丹念に資料を探して新たな知見を得たいと考えている。

本論文を執筆するに際し、以下のDVD またはCDを参考にした。

- 1) DVD Robert le Diable  
指揮 ダニエル・オーレン  
演出 ローラン・ペリー  
ロベール役 ブライヤン・ヒメル  
ロイヤル・オペラ・ハウス管弦楽団  
セット・デザイン シャンタル・トーマス

2012年12月15日コベント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスで録画  
Opus Arte

(英語・フランス語・ドイツ語による小冊子付き)

2) CD Robert le Diable

指揮 ダニエル・オーレン

ロベール役 ブライヤン・ヒメル

サレルニターナ「ジョゼッペ・ヴェルディ」フィルハーモニー管弦楽団

2012年3月23日ライブ(デジタル)録音

Brilliant Opera Collection

(英語とフランス語による小冊子付き)

CDのカバーに使われているのはギユスターヴ・クールベ Gustave Courbet 作『悪魔のロベールを演じたルイ・ゲイマール』Louis Guéymard dans le rôle de Robert le Diable (1857、メトロポリタン美術館所蔵)が使われている。同美術館の公式サイトによると、注7で紹介したロベールのせりふの場面である。ロベールの衣装はオレンジ色であり、靴下と腕の部分は黒みが掛っている。ネルヴァルによるこのテノール歌手への言及はない。

3) CD Robert le Diable

指揮 トーマス・フルトン

ロベール役 アラン・ヴァンゾ

パリオペラ座管弦楽団&合唱団

1985年6月、パリ

(英語による小冊子付き)

Gala

なおネット上では1)以外の映像も見ることが可能であるが、著作権上の問題があるので、本論本では言及を控える。

4) DVD Le Domino Noir 3幕のオペラ・コミック

ウジェーヌ・スクリーブ作

オーベール 音楽

演出 ピエール・ジュルダン

指揮 ミシェル・スイウエルツェフスキ

コンピエーニュ帝国劇場

## 注

- (1) 間瀬玲子「ジェラルド・ド・ネルヴァルとウジェーヌ・スクリーブ」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』第10号、2015年1月、pp.57-68.

- (2) *Robert le Diable*, Édition bilingue, publication, traduction, présentation et notes par Élisabeth Gaucher, Paris, Honoré Champion, coll. 《Champion Classiques》, 2006は対訳本である。詳細な解説、固有名詞、用語解説、書誌が非常に充実している。*Robert le Diable, Roman du XII<sup>e</sup> siècle*, traduction, introduction, notes et bibliographie par Alexandre Micha, Paris, Flammarion, coll.《GF》, 1996も参考にした。また『フランス中世文学集 3 — 笑いと愛と — 』白水社、1991年に収録された天沢退二郎訳『悪魔のロベール』（作者不詳）及び同氏による解説を参考にした。
- (3) *Robert-le-diable*, opéra en cinq actes, paroles de MM. Scribe et Germain Delavigne, musique de J. Meyerbeer, Paris, Bezou, 1831 (Gallicaから電子テキストを入手した。廉価版も入手している)。このテキストをRobert-1831と略すことにする。Eugène Scribe, *Œuvres complètes de Eugène Scribe*, Troisième série, Opéras, ballets, tome II, Paris, E. Dentu, 1875 (Gallicaから電子テキストを入手した。廉価版も入手している)。1875年はネルヴァルの死後である。この二つのテキストを比較すると、ト書きにかなり違いがある。本論文では1831年版を使って論考を行うことにする。また*Robert le Diable*, opéra en cinq actes, paroles de MM. Scribe et Delavigne, musique de M.J. Meyerbeer, Bruxelles, Lelong, 1841も参考にした。
- (4) Félix Clément et Pierre Larousse, *Dictionnaire lyrique ou histoire des opéras*, Paris, Administration du grand dictionnaire universel, 1867-1869 (Gallicaから電子テキストを入手し、廉価版も入手した)。Kobbé, *Tout l'opéra, Dictionnaire de Monteverdi à nos jours*, traduit de l'anglais par Marie-Caroline Aubert, Denis Collins et Marie-Stella Pâris, Paris, Robert Laffont, coll. 《Bouquins》, 1997のRobert le Diableの項目も参考にした。残念ながら編者スタンリー・セイディ、日本語版監修者中矢一義・土田英三郎『新グローヴオペラ事典（普及版）』白水社、2011年には「悪魔のロベール」の項目はない。
- (5) Louis Maleuvre, costume d'Adolphe Nourrit (rôle de Robert), Paris, Martinet, 1831。残りの3枚のエッチングも同じ会社が1831年に発行している。ネルヴァルは俳優ヌリ氏に関して劇評で数度論じている。ヌリ氏は当時活躍したのだが、1839年3月7日にイタリアのナポリで若くして亡くなっている。例えば『プレス』紙1838年4月2日号*La Presse*, 2 avril 1838にネルヴァルはオペラ・コミック座Théâtre de l'Opéra-Comiqueで上演された『摂政時代のかつら製造業者』*Le Perruquier de la Régence*の劇評でヌリ氏を言及している。『プレス』紙はGallicaに収録されている。なおGérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome I, Paris, Gallimard, coll. 《Bibliothèque de la Pléiade》, 1989, p.388でこの記事を確認した。以下ネルヴァルのこの巻をPL. Iと略す。『摂政時代のかつら製造業者』の台本を入手したが、ヌリ氏が出演したわけではない。なおこの作品にジェニー・コロンが重要な役アガト Agatheで出演している。*Le perruquier de la Régence*, opéra-comique de Planard, Dupont et Thomas, costume de Jenny Colon (Agathe), Paris, Martinet, 1838 (Gallica)に2幕のエッチングが収録されている。黄色を基調としており、裾と袖は黒みがかかった紫色である。顔がジェニー・コロンその人を忠実に表しているかどうかはわからないが、愛らしい顔である。
- (6) 1幕7場のロベールのせりふ Robert-1831, p.11.

L'or est une chimère  
 Sachons nous en servir :  
 Le vrai bien sur la terre  
 N'est-il pas le plaisir ?

黄金は妄想  
 そのことを利用することを知ろう  
 地上の本当の善  
 それは快樂ではないだろうか？

(1 幕 7 場でベルトランも同じせりふを言っている。Robert-1831, p.12)

- (7) 5 幕 2 場のロベールとベルトランのせりふが混じっている  
最初の3行はロベール。3 行目はベルトランも同じせりふ。4 行目はベルトランのせりふ。  
Robert-1831, p.46.

O divine harmonie !  
O célestes accords !  
D'une aveugle furie  
Excitons les transports.

おお、神の調和 !  
おお、天の和合 !  
盲目的な熱情から  
激情をかき立てよう

- (8) 2 幕 1 場のイザベルのせりふ Robert-1831, p.15  
Que je hais la grandeur dont l'éclat m'environne !  
Des fêtes, des plaisirs, tout, hormis le bonheur.

私とその輝きが私を取り巻く栄光を嫌っていることか !  
祭り、快楽、幸福以外のすべて

- (9) 5 幕 3 場のアリスのせりふ Robert-1831, p.51  
Le voici ! fils ingrat ! fils coupable !  
Lisez !

ほらここにいる！ 恩知らずな息子！ 罪深き息子！  
読みなさい！

- (10) Eugène Du Faget, *Robert le diable, huit maquettes de costumes*, 1831.  
(11) フランス国立図書館のカタログによると、ニコル・ウィルドNicole Wild は本作品がシセリの作品であると主張している。Nicole Wild, *Décor et costumes du XIX<sup>e</sup> siècle*, tome I, Opéra de Paris, Paris, Bibliothèque Nationale de Paris, 1987, p.231のn<sup>0</sup>2。絵の下に書かれた番号と原書に書かれた番号が同じであることを確認した。なおカタログには異説も併記されている。ウィルドはNicole Wild, *Dictionnaire des théâtres parisiens (1807-1914)*, Lyon, Symétrie, 2012 を刊行した研究者である。本研究を進めるに際し、基本文献の一つとして参考になっている。  
(12) Edouard Despléchin, *Robert de Diable, esquisse préparatoire pour l'acte III, tableau 2, le cloître*, 1831.  
(13) Edouard Despléchin, *Robert de Diable, rideau pour l'acte III, tableau 1, les rochers de Sainte Irène*, 1831.  
(14) Jacques Isnardon, *Le Théâtre de la Monnaie, Depuis sa Fondation jusqu'à nos Jours*, Bruxelles, Schott, 1890. なお『ネルヴァル全集III』入沢康夫・稲生永、井村実名子「口絵解説」、筑摩書房、1976年、pp.575-577 も参考にした。  
(15) ジェニー・コロンがベルギーで出演した演目の中で、『セビリアの理髪師』以外で現在DVDによって鑑賞できるのは『ドミノ・ノワール』である。上記に詳細事項を記載した。  
(16) Marie de Paris, *Exposition Gérard de Nerval, choix des documents et rédaction du catalogue* par Éric

Buffetaud, Paris, Bibliothèque historique de la ville de Paris, 1996, pp.32-34.

- (17) *La Presse*, 21 mai 1838. Gallicaに収録されている。なおPL.I, p.406 で確認した。
- (18) PL.I, p.743. 現時点ではGallicaで本雑誌は電子化されていない。
- (19) 注(14)で引用したJacques Isnardon, *Le Théâtre de la Monnaie, Depuis sa Fondation jusqu'à nos Jours*, p.303.
- (20) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome II, Paris, Gallimard, coll. 《Bibliothèque de la Pléiade》 1984, pp.621-622. 以下この巻をPL.IIと略す。上記の引用に一か所綴りの間違いがあるので、他の校訂版を参照して訂正して引用した。翻訳する際に『ネルヴァル全集 Ⅲ 東方の幻』筑摩書房、1998年に収録された野崎敏・橋本綱 訳『東方紀行』を参考にした。『[旅する21世紀] ブック 望遠郷2 イスタンブール』同朋舎出版、1994、p.250に「イスラムの墓地、「死者の園」は、イスタンブールの人々の生活で、重要な位置を占めている。墓地は決してもの悲しい場所ではない。町の外、城壁沿い、エスキュダルの上、モスクの近く、ときには道路沿いに広がる森が墓地なのだ。人々はここに散歩やピクニックに来たり、イトスギの木陰に涼みにやってくるのである。」と書かれている。なおイスタンブールはコンスタンチノープルのことである。
- (21) PL.II, p.622.
- (22) プレイアド版の注 (PL. II, p.1569) にも書かれているように、ネルヴァルの引用は正確ではない。*Faust de Goëthe, suivi du Second Faust, choix de ballades et poésies*, Paris, Librairie de Charles Gosselin, 1840, p.326. またGérard de Nerval, *Lénore et autres poésies allemandes*, Paris, Gallimard, coll. 《Poésie》, p.78 で確認を行った。ネルヴァルによる『ファウスト』の翻訳の重要性は、間瀬玲子「ネルヴァルとバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』」『筑紫女学園大学・短期大学部 人間文化研究所年報』第26号、2015年、pp.93-107 で論じた。
- (23) PL.II, p.1569.
- (24) Gérard de Nerval, *Voyage en Orient*, tome IV, texte établi et annoté par Gilbert Rouger, [Paris], Imprimerie nationale de France, 1950, p.294. 原書には出版地が記載されていないので、フランス国立図書館の公式サイトのカタログで確認した。
- (25) Théophile Gautier, *Constantinople*, Paris, Michel Lévy frères, 1873, p.157及びThéophile Gautier, *Constantinople*, Paris, Bartillat, p.196.
- (26) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome III, Paris, Gallimard, coll. 《Bibliothèque de la Pléiade》 1993, p.404. 翻訳する際に『ネルヴァル全集 V 土地の精霊』筑摩書房、1997年の田村毅 訳『ボヘミアの小さな城 散文と詩』を参考にした。
- (27) Robert-1831, p.35.
- (28) *Analyse-programme de Robert-le-Diable*, grand opéra en 5 actes, par MM.Scribe et G.Delavigne, musique de M.G. Meyerbeer, Lyon, au Grand-Théâtre, 1834, pp. 10-11 (Gallicaより入手した)。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 25370391 の助成を受けたものです。

(ませ れいこ：英語メディア学科 教授)